



HEADLINE

- (1) 1月のマネートピックス
- (2) 今月の金利情報
- (3) コラム～★FPのひとりごと★～
リタイアしたら確定申告
- (4) FPコバさんより
三国志から。いつの世も役人は滅私奉公！

●マネートピックス

- ◇誕生から10年、ユーロ圏は16カ国に拡大 (1月1日)
スロバキアが旧ソ連圏としては初めてユーロを導入。ユーロ圏は人口約3億3,000万人で米国を抜き、域内GDPは米国に次ぐ約8兆9,300ユーロ。外貨準備や決済通貨としてドルに次ぐ地位を確立。
- ◇08年の世界株価、歴史的な下落率 (1月1日)
07年終値からの下落率は、NYダウが約34%と大恐慌当時の1931年以来の水準。ロンドン市場は約31%、独仏も約40%下落した。アジアでも上海総合指数が約65%、印ムンバイが約52%、日経平均が42%の下落、いずれも歴史的な大幅安となった。
- ◇株券電子化完了 (1月5日)
- ◇英、4カ月連続利下げで政策金利1.5%に (1月9日)
1694年のイングランド銀行創設以来初の1%台。
- ◇国内最大の投信「グローバル・リソープン」分配金下げ (1月19日)
01年1月以降続けた1万口あたり月40円(税引き前)の分配金を、1月から30円に引き下げた。組み入れ債券の平均利回り低下や急激な円高で分配の原資となる金利収入が減ってきたため。
- ◇バラク・オバマ氏、第44代米大統領に就任 (1月20日)
- ◇08年度・09年度は2年連続マイナス成長～日銀見通し (1月22日)
08年度のGDP予想を昨年10月末の+0.1%から▲1.8%に、09年度を+0.6%から▲2.0%に下方修正。物価も2年連続で下落と予想。企業の資金繰り支援のため、CPや社債を買取る方針を発表した。
- ◇09年の世界経済、戦後最悪の0.5%成長に～IMF (1月28日)
08年11月の見通しから1.7%下方修正。
- ◇日本の景気後退、07年11月から～内閣府 (1月29日)
02年2月に始まった戦後最長の景気回復は07年10月までの69カ月で終了と判定。期間中のGDP実質成長率は年平均2.1%、デフレ下での名目成長率平均はわずか0.8%。回復を支えたのは輸出増を追い風とする大企業で、家計にとっては「実感なき回復」。
- ◇国内の雇用情勢、生産活動、ともに急激に悪化 (1月30日)
08年12月は、完全失業率4.4%と41年ぶりの悪化幅を記録(総務省)、鉱工業生産指数も前月比9.6%低下で過去最大の下げ(経産省)。

●金利データ

	2009年2月2日現在	前月比
政策金利(無担保コール翌日物)	0.10	→
公定歩合	0.30	→
短期プライムレート(都銀 最頻値)	1.475	▲0.20
長期プライムレート(みずほコーポレート銀)	2.25	▲0.15

<主要国 政策金利>

米国FFレート(誘導目標値)	0.0~0.25	→
EU/ECB主要政策金利	2.00	▲0.50

◆貯蓄 *年平均利回り

三菱東京UFJ銀行	普通預金		0.040	→
	貯蓄預金(10万円以上)		0.070	→
	スーパー定期預金(300万円未満)	1ヵ月	0.150	→
		1年	0.250	→
3年		0.250	→	
外貨定期 1年	米ドル	0.360	0.05	
	ユーロ	0.500	▲0.71	
	豪ドル	1.490	▲0.94	
ゆうちょ銀行	通常貯金		0.05	→
	定額貯金	3年以上	0.250	▲0.05

野村証券	MMF(運用実績)	*	0.389	→
	外貨建てMMF(運用実績)	米ドル	* 0.257	↘
		ユーロ	* 1.139	↘
		豪ドル	* 3.592	→

国債	個人向け国債(1月)	固定・5年	0.80	▲0.19
	募集終了 次回は3月予定	変動・10年	0.58	▲0.11
	利付国債10年(298回/2月発行)		1.3	▲0.10

◆ローン		フラット35は金利に保証料相当分を含む	
住宅ローン(三菱東京UFJ銀行)	変動型	2.875	→
	固定・5年	3.400	▲0.05
		3.600	▲0.25
	フラット35	保証型	3.690
買取型		3.370	+0.14
フラット35(買取型)	21年以上	3.020~3.970	→
	※住宅金融支援機構 発表	最多 3.270	→
	20年以下	2.770~3.720	→
		最多 3.020	→

変動金利型住宅ローンについては、12月の日銀の利下げに対応して、4月の見直しを待たず1月に前倒しで金利を引き下げた銀行もある(上表の三菱東京UFJは変更せず)。長期金利は下げ止まっており、フラット35はわずかに上昇。海外では、米FRBはゼロ金利継続。欧州では物価の急落で1月に続く追加利下げ観測も出ている。

コラム～★FPのひとりごと★～

リタイアしたら確定申告



1年で最も寒い時期となりました。今年は気候ばかりではなく、経済もとても寒い状況ですので、暮らしを守る知恵を求めてFPに相談される方も増えているようです。暮らしを守るために2月にするべきことは、まず「確定申告」でしょう。

確定申告という、事業をされている方だけが対象だというイメージが一般には強いようで、会社員の方やリタイアされた方々にとっては関係ないものだと思われるようです。

会社員の方でも、昨年住宅ローンを組まれた方や、多額の医療費を支払われた方は確定申告をすることにより、払いすぎた税金を取り戻すことができますので、確定申告は決して関係ないものではありません。

それよりも確定申告をきちんと考えていただきたいのが、リタイアされた方々です。

昨年、一昨年から団塊の世代の方々が定年を迎えられ、年金を受給され始めています。定年後も引き続き勤務されている方は年末調整があるのでまだ良いのですが、本当にリタイアされた方々は確定申告をしないと税金を必要以上に払いすぎてしまう可能性の高い方々です。

確定申告をすることにより払いすぎた所得税を取り戻すことはもちろんですが、その他にも住民税、国民健康保険や後期高齢者医療制度（長寿医療保険）と介護保険の保険料、さらに70歳以上の方については、申請が必要ですが医療保険の自己負担割合が3割から1割へ軽減される場合まであります。

取り戻せる所得税はそれほどの金額ではない場合でも、住民税や社会保険料などが大きく軽減される場合もあります。

なぜ年金受給者の方々は、確定申告で税金が安くなるケースが多いのでしょうか。それは、年金収入は雑所得として課税され、所得税は年金から源泉徴収されていますが、源泉徴収する税額を計算する際に、国民健康保険など社会保険料の負担を考慮していないことに理由があります。

さらには、リタイアした方には会社員のような年末調整の仕組みがありませんので、会社員の方であれば会社が計算してくれた生命保険料控除や地震保険料控除などもリタイアした方については全くおこなわれていません。その結果、多くの方々が税金を払いすぎている可能性が高いのです。

医療費控除については、会社員の方でもリタイアした方でも確定申告が必要なことは同じですが、リタイアした方はまとまった金額の医療費を支払っているケースが増えてきますので、さらに確定申告の必要性が高まってきます。

その一方できちんと確定申告されている方は必ずしも多くはないようです。会社に就職して以来40年近く税金のことは会社にお任せだった方々ですから無理もありません。

それから、今回の確定申告には間に合わないかもしれませんが、社会保険料控除のポイントをお伝えしておきたいと思います。まず、社会保険料の支払は家族の中で最も所得の多い人にまとめておくことが基本です。まとめておくことによって税額を抑えることができます。例えば、国民健康保険の保険料は最も所得の多いご主人の口座振替にしておくといいでしょう。介護保険料は基本的に年金から天引きされてしまいますので、残念ながら奥様の年金から天引きされた介護保険料をご主人の社会保険料控除に使うことはできません。一方、75歳以上の方が対象となる後期高齢者医療制度ですが、この保険料も年金から天引きが原則なのですが、口座振替にすることもできるようになりました。東京都などは昨年10月から可能でしたが、今年の4月からは全国的に口座振替が可能になりますので、保険料は最も所得の多いご主人の口座振替にされることをお勧めします。

清水保険資産設計 清水光彦

●FPコバさんより

三国志。曹操が30万の軍勢を引き連れて南下する。進むに従い水害の状況がひどくなり、先々で食料の手当てが出来なくなる。遂に困った倉奉行が曹操のところへ相談に来たが、曹操「予に相談してどうなるか。そんなことでいちいち予に相談しなければならぬなら辞めてしまえ。」「が今度だけは智恵を授けてやろう。兵に配る糧米を計る枡を小枡にするが良い。」早速奉行は枡を変えて配給をした。暫くすると兵の不満が噴出して来る。そこで曹操はその倉奉行を呼んで「不満が出ているようだが、策はないか。」「御座いません。」「ではお前から一物を借りて鎮めようと思う」「何をですか?」「お前の首だ。」「げっつ・・・。」とっさに後ろから武士が来て奉行の首を切り落とした。そして陣中に晒した。「この者、糧米を盗み、私腹を肥やす為に小枡を用いた。よって茲に正す。」兵の士気は上がり作戦は成功した。